

令和5年8月1日発行

草津未来研究所 News Letter



立命館大学「地域参加学習入門」でゲストとして話題提供を行いました

立命館大学びわこ・くさつキャンパスでは、社会で学ぶ自己形成のために、地域参加活動へ誘う動機づけをおこなう「地域参加学習入門（G2）〔担当教員：立命館大学共通教育推進機構 山口洋典教授〕（受講者：200人）」を開講されています。

「第13回 地域人として生きる（3）コミュニケーションデザインとコミュニティ」において、未来研究所職員がゲストとして話題提供を行いました。草津未来研究所が令和4年度に実施した調査研究「大学生の意識に着目した草津市の魅力向上のための基礎調査」において、市民を対象に行ったアンケート調査の結果をもとに、立命館大学・大学生の取組は直接「知らない」「関わったことはない」という回答が多いが、回答者の半数以上が草津市は大学・学生のまちだと感じていること、大学生には「地域を舞台にした活動」「子どもに関する活動」を期待している回答が多いことなどを話しました。また、びわこ・くさつキャンパスの学部生へのアンケート調査では、地域活動に参加したことはないが参加してみたい回答が一定割合あり、そのためにはお互いを知る・結びつく仕組みが重要で、大学ではサービ斯拉ーニングセンターで色々なボランティア情報が提供され、草津市でも、広報くさつやホームページ、SNSでも情報を発信しているので、興味があるものにはぜひ参加して欲しいと話しました。授業では、受講生同士の対話をうながすためゲストから問いかけが行われます。今回の授業でも、2つの問いかけをしました。

問いかけ①

「あなたは地域の人（住民）とのつながりを感じたことはありますか（草津市でも、草津市以外でも）？ それはあなたにどのような影響を与えましたか？」

授業後のアンケート結果

- ①感じたことがある…97人
- ②あまり感じたことがない…19人
- ③ほとんど感じたことがない…19人
- ④その他…1人

問いかけ②

「あなたにとってふるさと（思い出の地）はありますか？ あなたはそのふるさと（思い出の地）の良さを話せますか？」

授業後のアンケート結果

- ①そうした場所があり、思い出を人に話すことができる。…114人
- ②そうした場所があるが、思い出を人に話すには抵抗がある。…12人
- ③そうした場所がないが、思い出を人に話すことができる。…8人
- ④そうした場所がなく、思い出を人に話すことに抵抗がある。…2人

今回の話題提供が、地域人としての考え方の参考になったり、草津市での地域活動につながればと思います。

草津未来研究所 TEL:077-561-6009